

水害時避難訓練を実施しました

日 時:令和8年4月28日(火曜日) 10時～

場 所:榛原こども園・こども家庭センター



参加者

榛原こども園 園児	113名
家庭センター利用者	親子6組14名
榛原こども園 職員	31名
家庭センター職員	13名
こども未来課 職員	4名
危機管理監	

訓練内容

避難確保計画に基づく
水害時避難訓練

災害対応の原則

1. 準備したものでなければ機能しない
2. 避難の『空振り』は許されるが、『見逃しは許されない』
3. 最悪の事態を想定して行動せよ

訓練の目的

全体

- 当初計画は施設利用者を180人定員で作成しているが、在園者は約120人。災害対応人員の過不足を検証する
- 屋外避難のタイミングを失した状況で、緊急安全確保を図る際の避難経路や情報伝達、各班の役割を確認・検証する
- 必要な設備の有無・物資の数量の過不足を確認する
- 施設のリスクを把握すること

各班

- 任務を遂行するにあたり、必要なこと・ものを各自確認する
- 各班対応業務について、必要な人材属性を確認
- 施設の形状・設備を把握し、迅速な行動を取れるよう訓練経験を積むこと
- 自己の責任を自覚し、園児等の命を守るため日常から防災意識を高めること

訓練 スケジュール

避難訓練(実施訓練)スケジュール

訓練前準備

No.	準備内容
1	体制表・役割の確認
2	装備品・備蓄品の数量、在庫確認
3	事前学習…訓練資料(各班心構え・実施すべき主な対策【平時の備え・初動段階】) 避難確保計画研修動画を視聴

実施訓練

No.	内容
1	9:50 当日の流れを確認 (統括指揮者・情報連絡班・装備品等準備班・危機管理監・こども未来課)
2	10:00 訓練開始
3	10:30 避難開始(予定)
4	10:50 訓練終了(予定)

訓練開始

9:50 事前打ち合わせ

訓練内容について、統括指揮者より危機管理監へ事前報告を行いました。
また、訓練参加者には水害訓練の実施について、冷静に落ち着いて行動するよう呼びかけました。



前提条件を確認

- 警戒レベル4
- 避難のタイミングを失した状況
- 悪天候の中での避難は危険を伴うことから、屋内安全確保(施設の2階へ避難)を図る

訓練シナリオ1 情報の収集

防災体制の確立
警戒レベル4

10:00 訓練開始

- 1 宇陀川が氾濫危険水位到達(4.2m)したことを情報連絡班が確認
確認手段：「奈良県河川情報システム」「災害対策本部」
- 2 情報連絡班は統括指揮者へ報告
「宇陀川が氾濫危険水位に到達しました。氾濫までリードタイムは2時間、道路は冠水しており危険です。」



主な収集する情報

防災気象情報(気象庁)

- ・早期注意情報(警報級の可能性)
- ・洪水注意報、洪水警報
- ・大雨注意報、大雨警報、大雨特別警報
- ・洪水キキクル
- ・洪水予報 ・水位到達情報

※ 収集方法は避難確保計画に掲載

訓練シナリオ2 避難開始の 判断

緊急安全確保

屋内安全確保を判断

10:03 避難の判断

3

統括指揮者は総合的に判断し、『緊急安全確保』を宣言

館内放送「緊急安全確保のため、施設の2階へ避難します。こども園遊戯室へ誘導を開始してください。」

◆ 災害時にトップがなすべきこと

1. 「命を守る」ということを最優先、避難開始を躊躇してはならない。
2. 判断の遅れは命取り。判断を早くすること。
3. 人は逃げないものと知っておくこと。迫りくる危険を過小評価して心の平穏を保とうとし、逃げ遅れる。危険情報を随時流し、緊迫感をもった言葉で語るなど、逃げない傾向にある人を逃げる気にさせる技を身につける。
4. 情報を出し続けること。情報は隠さないこと。情報発信は支援の獲得につながる。
5. 支援者へ感謝の言葉を伝え続けること。職員も被災者である。職員とその家族への感謝も伝えること。

訓練シナリオ3 避難誘導開始

園児・施設利用者誘導
装備品の装着・誘導
止水版設置
持ち出し品の所持

10:05 避難誘導

4	避難誘導班は園児・施設利用者を集める。装備品を装着し、2階へ避難開始
5	装備品等準備班は止水版を設置後、 <u>持ち出し品(計画にリスト化したもの)</u> を所持して2階へ避難開始



止水版設置の様子

訓練シナリオ4 避難開始の 連絡

災害対策本部
保護者



10:05 避難開始の報告・連絡

	情報連絡班は避難開始を災害対策本部へ連絡
6	「榛原こども園2階遊戯室へ10時05分に避難を開始しました。支援をお願いします。」
7	情報連絡班は避難開始を保護者へコドモンで連絡 「遊戯室へ10時05分に避難を開始しました。随時連絡をいたしますので、連絡がとれる状態でお待ちください。」
8	情報連絡班は通信機器を所持して2階へ避難

情報伝達の重要性

1. 市と緊密な連携(情報共有)
2. 保護者と危機感を共有(時々刻々の情報を発信)
3. 保護者への避難の情報伝達(あらゆる手段を活用、伝達文は簡潔に緊迫感のある表現<内閣府(防災担当):市町村のための水害対応の手引き>)

訓練シナリオ5 最終避難の 呼びかけ

館内放送

各室最終確認

10:10 逃げ遅れ最終確認

避難誘導班は逃げ遅れがないか各室を最終確認後、統括指揮者へ報告

9 統括指揮者は館内放送で最終避難を全体に呼びかけ

「川が増水しています。こども園2階遊戯室へ避難してください。」

10 統括指揮者は最終確認後、2階へ避難



訓練シナリオ6

点呼

避難完了報告

災害対策本部

保護者

10:15 避難完了の報告・連絡【避難誘導 所要時間10分】

- | | |
|----|--|
| 11 | 避難誘導班は出席表・来館表で点呼、体調・ケガを確認後、統括指揮者へ報告
「〇〇組〇名、全員います。ケガ人、体調不良者はいません。」 |
| 12 | 統括指揮者は最終確認後、災害対策本部へ避難完了報告
情報連絡班は保護者へ避難完了報告
「榛原こども園 園児〇〇名、こども園遊戯室へ10時15分に避難完了しました。全員異常ありません。」 |



訓練振り返り



訓練を通して気づいたことの整理

訓練の中で気づいたこと、見えてきた改善点などを訓練参加者で振り返りました。

危機管理監より災害時に備えておくべきことについて、助言・指導をいただきました。一部を掲載します。

- 避難する時は、窓のカギを閉めること。(水の侵入を防ぐ)
- 電話連絡の内容は、周りにも聞こえる声で復唱する。

(復唱することで、周りにいる人にも内容が伝わり、危機感をもって対応ができる。)

- 災害対応の相談は、こどもに不安を与えないよう離れた場所で行う。
- 事前に自分の役割をしっかりと理解し、準備をしっかりとしておくことが大事。

訓練参加者に訓練後アンケートを取り、意見や感想をいただきました。

情報伝達訓練

避難確保計画に定める情報伝達訓練は、令和8年4月30日（木曜日）10時に実施しました。

保護者に対する災害時の情報伝達手段は情報発信ツール「コドモン」、メール、電話などを利用します。

今回の訓練は、保護者に対し災害時の緊急連絡手段として「コドモン」を利用する旨を周知するため、コドモンからテストメールを配信しました。また、コドモン未登録の保護者に対し、園より登録いただくようお願いしました。

送信対象者	115名
既読人数	106名

※令和8年5月8日(金曜日)に、4月30日のテストメール未読者9人へ再度コドモンから連絡を発信しました。

内容:コドモンでのメール確認を依頼

計画の見直し

避難確保計画の見直し

令和8年3月に策定した「榛原こども園・こども家庭センター 洪水時の避難確保計画」に基づく今回の避難訓練の結果、適正な人員配置や備え付けるべき設備、装備品等を整理し、検討します。訓練結果については報告書にまとめ、市へ報告いたします。

令和8年5月末から**新たな防災気象情報が運用(※)**されていることから、計画も新しい防災気象情報を踏まえた内容に変更いたします。

今後とも訓練を重ね、有事の際に即時対応できる体制づくりに努めてまいりますので、保護者の皆様におかれましては、何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(※)宇陀市ホームページ「新たな防災気象情報が運用されました！」
<https://www.city.uda.lg.jp/soshiki/7/23980.html>